



2018年6月8日
三重県
松阪市
公益財団法人イオン環境財団

地域との連携を深める森づくり
6/16(土)第1回「松阪市植樹」を開催
500名のボランティアの皆さまと5,000本を植樹

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）、三重県（知事 鈴木英敬）、および松阪市（市長 竹上真人）は、6月16日（土）松阪市飯南町向粥見地区にて、第1回「松阪市植樹」を行います。

松阪市飯南町向粥見地区は、同市中央部に位置し、近くには櫛田川が流れる自然豊かな地域です。

このたびの植樹は、本年4月に三者が締結した森林保全協定に基づき、人工林のスギを伐採した跡地に、豊かな水を育む本来の森を再生することを目指して2年計画で実施するものです。

第1回となる今回は、500名のボランティアの皆さまとクヌギやヤマザクラなど、地域に自生する樹種12種5,000本の植樹を行います。



森林保全協定を締結
(2018年4月6日)

三者は、今後も豊かな自然と人々の暮らしを守るため、植樹活動をはじめとする環境保全活動を積極的に取り組んでまいります。

【第1回「松阪市植樹」植樹概要】

日時： 6月16日（土）10:00-12:00
場所： 三重県松阪市飯南町向粥見3738-9
植樹本数： 5,000本
樹種： ヤマツツジ、クヌギ、コナラ、ヤマザクラなど地域に自生する樹種12種
参加員数： 500名
面積： 2.0ha
出席者： 三重県 知事 鈴木英敬
(予定) 松阪市 市長 竹上真人
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田卓也

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は、1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,166万本（2018年2月末時点）を超えています。

*イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

■植樹活動

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的として、アジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2018年度は、国内では福島県南相馬市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、沖縄県糸満市、千葉県千葉市にて、海外では中国北京市密雲区、ミャンマーのヤンゴン、インドネシアのジャカルタにおいて植樹活動を実施します。



2018年北京市密雲植樹



2017年大分県竹田市植樹

《三重県における当財団の環境活動》

2005年～2009年「宮川植樹」

三重県大台町（旧宮川村）では、林業の担い手不足のため、手入れが行き届かなくなった放置森林に、広葉樹との混交林づくりを行っていましたが、2004年9月の台風21号で土石流が相次ぎ大きな被害を受けました。荒れた林を、土砂崩れ防止、水源涵養、二酸化炭素吸収という森林本来の役割を蘇らせるという取り組み主旨に賛同し、2005年から5年計画で大台町、みやがわ森選組（しんせんぐみ）とともにヤマモモ、クヌギ、アキグミ、ウバメガシ等を植樹しました。大台町は豊かな自然に囲まれており、2016年3月にはユネスコエコパーク※に登録されました。当財団は日本ユネスコエコパークネットワークと連携協定を締結しており、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでまいります。



2008年 宮川植樹

※1976年にユネスコが開始した取り組みで、「人が自然と共生しながら“持続可能な発展を目指す”モデル地域」として認定された地域

2006年～2008年「四日市水沢植樹」

四日市市からの要請に基づき、「四日市サイクル・スポーツフェスティバル」のレースコース沿いに桜やもみじを3年計画で植樹しました。

2012年～2014年「紀北町植樹」

三重県紀北町海山区は、世界遺産である熊野古道が通る山、川、海と豊かな自然を有する地域です。しかしながら、近年高速道路の建設に伴い、町有林等が伐採されたままの状態でした。また、住宅地の裏山の松林が枯れ、整備が急がれる場所でもありました。これらの場所に土地本来の樹種を植樹することで土砂崩れなどの災害から守り、住民の皆さまが安全に過ごすことができ、安心して観光ができる街づくりを目指し、2012年から3年計画で植樹を実施しました。



紀北町植樹 記念石碑

[(公財) イオン環境財団による三重県での植樹活動一覧]

植樹エリア	実施年度	植樹本数	ボランティア数
大台町 (旧宮川村)	2005年～2009年/5年間	8,100本	2,270名
四日市市水沢町	2006年～2008年/3年間	470本	570名
紀北町海山区	2012年～2014年/3年間	15,000本	1,540名
累計	植樹回数11回	23,570本	4,380名

■環境活動助成

1991年より毎年「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2017年度は、植樹、森林整備、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護絶滅危惧生物の保護などを行う102団体に、9,500万円の助成を行いました。累計では2,846件、総額25億9,200万円となりました。2018年も継続して環境活動への助成を実施します。



助成先の活動
「里山の山野草を守る会」

■顕彰 生物多様性アワード

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞 (国際賞)」と「生物多様性日本アワード (国内賞)」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は第5回「生物多様性日本アワード (国内賞)」を実施しました。2018年度は、第5回「生物多様性みどり賞 (国際賞)」を実施いたします。



第5回「生物多様性日本アワード」授賞式 (国連大学)

■環境教育

アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について、国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)」を実施しています。2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立プノンペン大学 (カンボジア)、清華大学 (中国)、インドネシア大学 (インドネシア)、早稲田大学 (日本)、高麗大学校 (韓国)、マラヤ大学 (マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校 (ベトナム)、チェラロンコン大学 (タイ) の8ヶ国合計64名の学生が参加し、8月1日～6日の期間、日本で開催しました。2018年度は、新たにヤンゴン経済大学を加え、9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日～5日の期間で、マレーシアのクアラルンプールにて開催する予定です。



第6回ASEP開講式
(早稲田大学大隈講堂)

早稲田大学との連携事業－「生物多様性を越えて (Beyond Biodiversity)」

国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とするプログラムです。2016年にベトナム国家大学ハノイ校で初めて開催し、続く2017年は10月に王立プノンペン大学 (カンボジア) にて開催しました。

2018年は、9月23日 (日) に、インドネシアのジャカルタで実施する予定です。



第2回生物多様性を越えて
(カンボジア王立プノンペン大学)

東京大学 I R 3 S - 「イオン未来の地球フォーラム」

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行案を議論し、講演と対話型パネルディスカッションにおいて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を、2017年よりから開催しています。第2回は本年1月20日(土)に東京大学安田講堂にて開催いたしました。第3回は、2019年2月2日(土)に開催を予定しています。



第2回イオン未来の地球フォーラム
(東京大学安田講堂)

太陽光発電システムの寄贈

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は引き続き、中国武漢市の小中学校5校に寄贈しました。



2010年千葉県で寄贈



2017年中国・武漢市で寄贈

【その他】

■イオンワンパーセントクラブ「ティーンエイジアンバサダー」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブが実施する「ティーンエイジアンバサダー（高校生交流）事業」では、2015年に三重県とインドネシアの高校生の交流プログラム「日本インドネシアティーンエイジアンバサダー」を行いました。さらに昨年実施した「日本ベトナムティーンエイジアンバサダー」では、1月に三重県の高中生計16名がベトナムを訪問、また3月にはベトナムの高中生16名が日本を訪問し、お互いの親交を深めました。両国の生徒がお互いペアとなって交流し、政府への表敬訪問や現地のくらしを体感するホームステイ、伝統工芸体験など、国の文化や価値観に触れる活動を行いました。2017年3月、「ハノイ市100万本植樹計画」に賛同してハノイ市内のホアビン平和公園で当財団が主催した桜植樹には、両国の生徒が参加しました。

■森びと養成講座「森つなぎプロジェクト」(三重)

イオンは、森の循環がもたらす自然の恵みを私たちのくらしに役立てるため、「植える」「育てる」「活かす」活動として「イオン 森の循環プログラム」に取り組んでいます。本プログラムの一環として、2014年より農山漁村進行・林業経営の課題に取り組む三重県、林業に携わる仲間づくり・ネットワークづくりをおこなうNPO法人みやがわ森選組（大台町）と連携し、林業後継者の育成をめざす「森つなぎプロジェクト」に参加しています。

